

新技術・情報名	ビワのわい性台木の比較
場所名	長崎県果樹試験場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>昭和51年にマルメロ、オオカナメモチ、マメビワ、茂木、田中を台木として茂木を接木し、樹勢、収量、果実品質の調査を行った。なお、樹勢に関しては平成2年8月に解体調査を行った。収量、果実品質は昭和56年～平成元年の平均である。</p> <p>(1) マルメロ台、マメビワ台は、茂木台、田中台、オオカナメモチ台に比較して、樹高、樹幅、樹容積が小さく、ややわい性を示し、枝数、葉数、枝重、根重とも少なかった。</p> <p>(2) マメビワ台は昭和60年以降の枝の伸び、樹高の伸びが大きく、将来はわい性ではなくなる可能性を示した。</p> <p>(3) マルメロ台は樹勢の弱った木が現れた。</p> <p>(4) 1樹当たりの収量はマメビワ台、マルメロ台で少なかったが、樹冠内の単位面積当たりでは台木による差は認められなかった。</p> <p>(5) 以上の結果から、樹高が低いマメビワ台、マルメロ台においても茂木台との樹高の差は小さく、わい性台木としての実用性は少ない。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>ビワは樹高が高くなり、袋掛け、収穫等の作業に多くの労力を要するため、わい性台木の実用化が望まれている。しかし、今回の探索では実用的なわい性台木は見つからなかったため、さらに探索と育成を行う必要がある。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>ビワ栽培地帯</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>わい性台木は見つからなかったため、当面は樹高の切り下げや誘引等により低樹高化する。</p>	

## 2. 具体的データ

表1 樹の大きさ

台木名	樹高	樹幅	樹容積	1年生 枝数	葉数	枝重	根重	細根重
	(m)	(m)	(m <sup>3</sup> )	(本)	(枚)	(kg)	(kg)	(木)
マルメロ	2.9c	3.3a	16.2a	314b	6905	33.51	8.60	0.87
オオカナメモチ	3.8a	4.3b	33.7b	598a	14491	85.84	18.77	1.18
マメビワ	3.0bc	3.3a	16.8a	341b	7251	33.31	9.31	0.94
茂木	3.4ab	3.9b	26.2a	516a	16995	65.00	15.43	1.39
田中	3.6a	4.1b	30.9b	540a	11592	61.60	17.06	0.98
有意性	**	**	**	**				

表2 果実の生産性及び品質

台木名	着房率	収穫時期	収量		1果 平均重	果肉 硬度	糖度	酸含量
			1樹当たり	面積当たり				
	(%)	(日)	(kg)	(kg/m <sup>2</sup> )	(g)			(g/100ml)
マルメロ	68.8	-1.3c	14.4b	1.7	37.5	340b	11.5bc	0.23b
オオカナメモチ	61.5	+1.6a	28.8a	2.1	37.7	420a	11.4bc	0.27a
マメビワ	58.0	+0.4b	16.0b	1.9	36.2	320b	11.7ab	0.21b
茂木	63.3	0 b	24.9a	2.1	36.2	310b	11.9a	0.22b
田中	62.5	+0.3b	27.2a	2.1	37.1	320b	11.4c	0.22b
有意性	NS	**	**	NS	NS	**	**	**

注) 収穫時期は茂木台の収穫日に比較した日数 (-は茂木台より早く、+は遅い)

## 3. その他特記事項

担当部科名：育種科

研究課題名：ビワのわい性台木の探索

研究期間：昭和51年～平成3年

発表資料名等：昭和51年～平成3年度長崎県果樹試験場業務報告